

1. 文化活動発表・鑑賞の場に関する方針決定までの経緯

R7.3

大野市文化会館あり方検討報告書

文化会館のあり方と方向性について

- 文化活動に必要な補修や備品の導入を行うなど、市内の既存施設を有効に活用する
- 現文化会館について、技術の進歩などにより事業費を抑えた工法による耐震化や長寿命化の可能性を探る

市の対応

次ページ参照

- ① 文化会館の利用団体に既存施設で活動を継続できるか、文化会館利用団体へ聞き取り調査
- ② 耐震化や長寿命化の可能性を探ることについて、専門家に意見聴取

専門家

60年近く経過した施設の耐震化や長寿命化を実施したことがない
 長寿命化を行っても何年の延命が可能かはわからない
 技術進歩による経費抑制以上に、材料費や人件費が高騰しており、全体的な事業費は高額になる

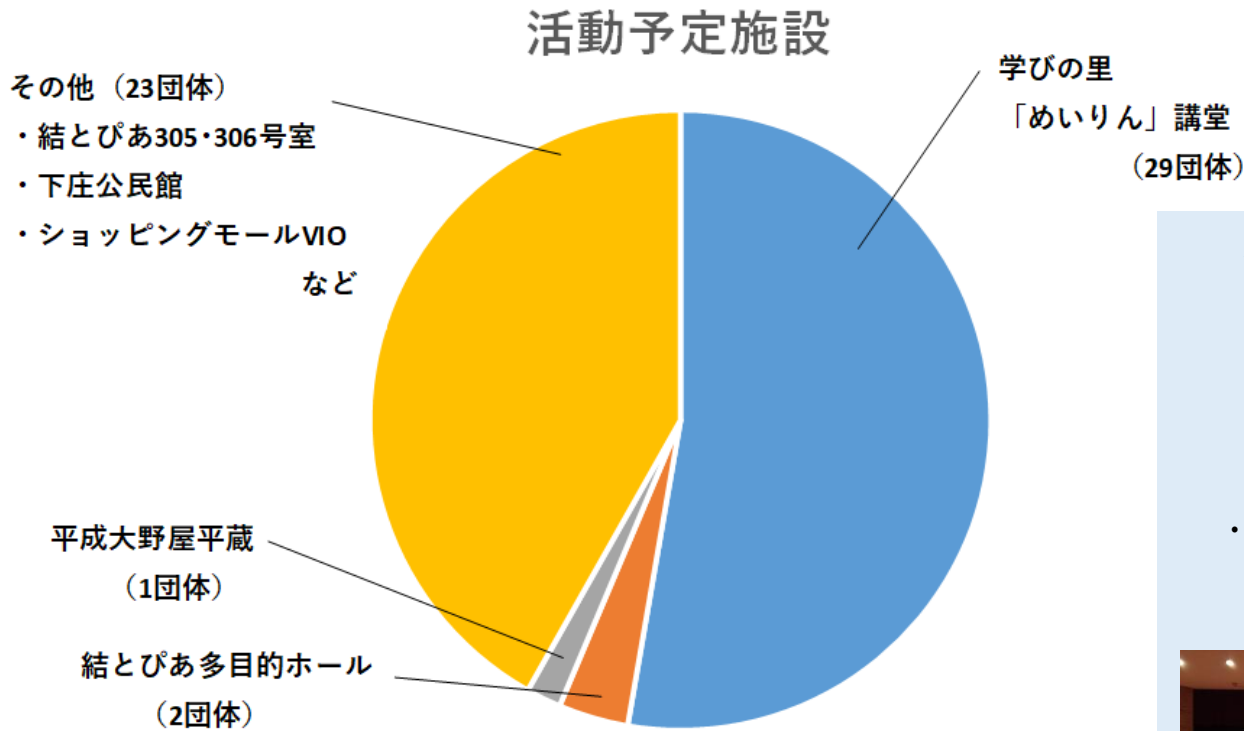
R7.5

文化活動発表・鑑賞の場に関する市の方針

(市民の安全と文化活動の推進を総合的に考慮)

- 文化会館の新築・増築並びに現文化会館の耐震化・長寿命化は行わず、現文化会館は、**令和8年5月31日をもって閉館**
- 文化活動に必要な補修や備品の導入を行い、**市内既存施設を有効活用**

1-2. 文化会館利用団体への聞き取り調査（令和7年4月）



令和7年度に文化会館大ホールで開催した市主催イベントの開催予定施設

市総合文化祭

- ・めいりん講堂
- ・結とぴあ多目的ホール

文化公演

- ・めいりん講堂

令和7年度大野市総合文化祭



結の故郷吹奏楽祭

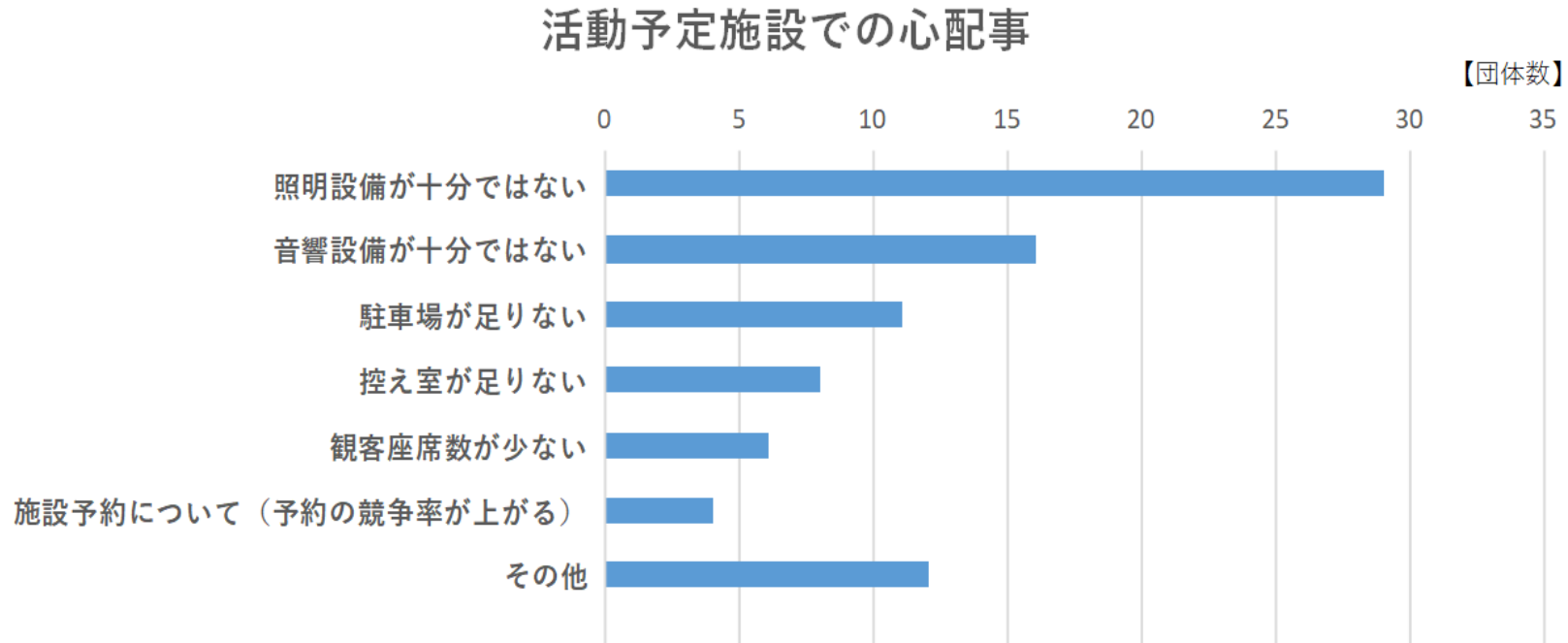


錦秋のしらべ

※対象は令和4年度から令和6年度の3年間で文化会館大ホールを利用した50の団体

※多くの団体は将来的に「めいりん講堂」の活用を検討している

1-3. 活動予定施設での心配事（複数回答）



結果：ステージに関して照明や音響が十分でなく心配との声がある。

一方で2 3 団体が「活動予定施設にある機材で活動できる」と回答している。

※今後、既存施設の使用感を確認する必要があります。

2. 既存施設の補修や備品スケジュール

	令和7年度	令和8年度 6月 文化会館閉館	令和9年度以降
備品の整理	備品の現状確認 移管備品の選定		
既存施設の使用感	市主催イベント 2団体	市主催イベント 29団体(仮定)	令和8年度に文化団体と協議していく
必要な補修や備品の導入	文化会館利用団体への聞き取り調査(令和7年4月実施)で23団体が『活動予定施設にある機材で活動できる』と回答	A	B

基本的な考え方

▶市や団体が施設の使用感を確認したときの、意見を参考にし導入する

A 最小限の補修や備品

- (例) ・学びの里「めいりん」講堂の照明、暗幕、譜面台
- ・結とびあ多目的ホールの音響改善のための調査

▶既存施設の利用が始まった後、実際の使用感を踏まえて意見を取り入れる

B 使用感の意見を反映したもの

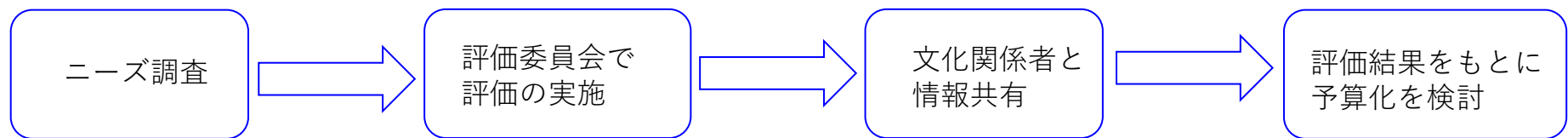
3.文化活動の環境づくり（評価委員会）

【評価委員会設置の趣旨】

市民や文化団体からのニーズを踏まえ、市が所有する既存施設（めいりん）について、市民がより納得できる、公平性に配慮した環境づくりを進めていく必要があります。

文化活動における施設（めいりん）の活用に向け、施設の環境づくりについて評価するため、大野市文化活動の環境づくり評価委員会を設置します。

【スケジュール】



4月 ニーズ調査
6月～ 施設の使用感確認

5月 第1回 評価委員会
6月～7月 第2回 評価委員会
9月 第3回 評価委員会